

氏名（本籍）	^{ナカ} 中 ^{ムラ} 村 ^{ヒデ} 英 ^オ 生（香川県）
学位の種類	博士（美術）
学位記番号	博美第208号
学位授与年月日	平成20年3月25日
学位論文等題目	〈作品〉「孔雀明王図」 〈論文〉燻製による金箔の古色再現（国宝源氏物語絵巻の時を辿る）
論文等審査委員	
（主査）	東京芸術大学 教授（美術学部） 手塚 雄 二
（論文第1副査）	〃 〃（〃） 竹内 順 一
（作品第1副査）	〃 准教授（〃） 吉村 誠 司
（副査）	〃 教授（〃） 関 出
（〃）	〃 〃（〃） 梅原 幸 雄
（〃）	〃 准教授（〃） 斎藤 典 彦
（〃）	〃 〃（〃） 植田 一 穂

（論文内容の要旨）

古典美術に見られる光度の鈍化した金箔のような鈍い輝きを、金箔をそのまま使って表現することは、金箔の特性ゆえ現時点では非常に困難である。模写する際に日本画家達は様々な代替案を模索しているが、決定的な技法をもって現状を打破するまでには到達していない。そこで絵画の時代背景を踏まえた上で、金箔の鈍化原因を自分なりに考察し、効率的な古色表現と金の表現方法を包括的に追及、提言することが今回の論文の目的である。

そのために、まず金箔製作の歴史的流れや作業工程、金箔の種類・特性等を分析し、そこから見えてくる金箔製作における独特の問題点や、模写の課題を自分なりに追求しようと思う。そして国宝源氏物語絵巻の現状模写を目的とした、燻製による古色再現実験等によって、古色化した金箔の新たな再現や表現方法を提言しようと思う。

手順としては、燻製実験による古色再現実験において、燻製材料や実験時間の相違といった燻製時の条件の変化が、どのように金箔や様々な色の岩絵の具等の顔料の古色化に影響を与えるかを、種類の異なる燻材を用いて、実験を進める予定である。その燻製実験によって金箔の古色化が着実に進み、成功裡に古色化を再現できれば、金箔使用の古典絵画や文化財の模写制作に活用の枠が広がるのではと期待している。

更に金箔の現状模写の実際の実験例として、従来手法である金泥使用による国宝源氏物語絵巻の現状模写の制作工程を取り上げることにする。その貴重な経験の上で、今回行う燻製による古色再現実験の手法や効果を、国宝源氏物語絵巻の現状模写に実際に活用してみようと思う。その実験に成功する事で、燻製による古色化の方法と効果を、金箔のある絵画の現状模写製作に有効活用することができれば、これ程嬉しいことはない。